社会奉仕部会

アドバイザー・パストガバナー	中野　哲男（浜　松）
リーダー・次期社会奉仕委員長	三嶋　豊造（甲府北）
サブリーダー・次期社会奉仕副委員長	後藤　臣彦（甲府シティ）
次期社会奉仕委員	福沢　雄一（浜松東）
次期社会奉仕委員	中沢　龍雄（甲府東）

報告者名：三嶋豊造　（次期社会奉仕委員長）

富士山文化遺産登録運動について

Ⅰ　分科会において、中野アドバイザーからロータリークラブが実践する様々な活動についてお話を伺ったが、その中で、富士山の文化遺産登録を目指す動きについては、最近頻繁にマスコミが報道しており、新聞紙面などを通じて目にする機会も多くなっている。

アドバイザーの話の中でゴミ等による環境汚染や今後の取り組みについての提言があったが、リーダーとして私からも、数年に渡り行われている清掃活動、植林活動、また、（財）富士山をきれいにする会（野口英一理事長：山日 YBS グループ関連団体）が、44 年に渡って行っている活動などの実例を紹介させていただいた。

行政機関に目を移すと、山梨・静岡両県が協調して積極的な活動を行う動きとなっており、山梨県においては山本栄彦知事を本部長として、去る 3 月 20 日には「富士山世界文化遺産登録山梨県推進本部幹事会」が、また、3 月 23 日には同本部会議が開催され、平成 18 年度事業計画案が討議されたところである。

このような地域全体の動きの中で、国際ロータリー第 2620 地区としても 2005 ～ 2006 予算も勘案しつつ、植林地の下草刈りを行い、樹木の成長を助ける運動を行うなどの意見統一が図られた。

富士山を巡る情勢はこのように上昇機運ではあるが、清掃活動に参加した静岡県の会員からは、「100 人～ 200 人単位の参加者では（ゴミの量が多すぎて）活動が十分に行えない。」といった、活動の実効性に関する意見もあった。

実際、ここ数年の清掃活動に参加してみると、心ない人が残していった「悪行の痕跡」を数多く目にすることとなり、人間性善説に疑問を感じてしまう部分もある。

しかし、富士山の環境保全・改善に向けた地域ぐるみの様々な取り組みの積み重ねと活動の周知によって、ゴミを捨てている人には反省を促し、また、より多くの人の関心を呼び起こす事に繋がっていって欲しいと心から願っている。

ここで、中野アドバイザーからいただいた資料として、本年 4 月 4 日付け静岡新聞の興味深い社説をご紹介する。

タイトル：日本人の心の拠り所だ　富士山と世界遺産

富士山の世界遺産登録に向け、静岡、山梨両県の合同会議が本年度の事業計画を決めた。民間でも、NPO 法人が昨年から運動を始めている。官民が一体となり、登録を達成したい。

登録は世界が富士山の「顕著な普遍的な価値」を認めて初めて実現する。最も重要なことはユネスコ（国連教育科学文化機関）の厳しい評価に耐える「価値」を証明することだ。

両県は５年後の登録を目指し、国がユネスコに提出する暫定リストの素案を年内にまとめる。人間の営みと自然とのかかわりの価値を認めさせるには、富士山にまつわる伝統、思想、信仰や、芸術、文化作品などを厳密に調査し、整理した内容に仕上げる必要がある。景観や植生なども調査対象になる。

素案づくりには、両県に学術委員会を置き、国際的な視野で判断する学術委員会も別に設ける。研究者の知見を集め、富士山の文化的価値を体系づけてもらいたい。

世界遺産は 1972 年にユネスコで採択された国際条約で、世界では 628 件の文化遺産、160 件の自然遺産などが登録済み。日本でも法隆寺の仏教建造物、白川郷など文化遺産が 10 件、白神山地、屋久島、知床の自然遺産３件が登録されている。

富士山の世界遺産登録については 94 年に 246 万人の署名を集める請願運動を展開した。しかし、ごみやし尿処理の管理対策の不十分さなどによって候補から外れた経緯がある。

し尿処理は山小屋などへのバイオトイレが普及し、富士山憲章運動やボランティアによる一斉清掃、植林活動も展開され、富士山の保全は大幅に改善されてきている。92 年に導入された「自然景観の中にある文化」を意味する「文化的景観」の概念も、富士山の世界文化遺産登録には好材料となりそうだ。

登録には、将来にわたって保全していく体制づくりも必要になる。遺産の範囲は特別名勝の五合目以上などが「核心地域」、ふもとの国立公園が「緩衝地域」に想定されるが、法の規制とともに、居住民ら民間側にも理解を求め、一体的な管理体制づくりが欠かせない。陸上自衛隊の演習場の位置付けも課題だ。

世界文化遺産登録に向けた民間運動は中曽根康弘元首相ら全国各界の著名人が名を連ねる NPO 法人「富士山を世界遺産にする国民会議」が再び、大きなうねりを巻き起こそうとしている。富士山の価値を見直すことは、日本人の心の拠り所（よりどころ）を再発見する絶好の機会だ。（終）

Ⅱ　最近、行政、自治会等により各地域で美化運動、清掃活動が行われるようになってきており、R.C でも独自に、また関係機関・団体とタイアップして環境保全に対する活動を強めているが、後藤サブリーダーから各クラブ社会奉仕委員長に発言を求めた際には、例えば富士山の環境保全に対する活動に関しても、社会奉仕委員会として単年度だけでなく永年に渡って、日本のシンボルとしての富士山の保全を全国的な運動に高めていく必要があるのではないか、との意見が出された。

山梨県では中学校によって学校林があり、生徒が植樹、整備を行っているが、家庭だけではなく、教育の現場も通じて恒常的に自然に親しみ、環境に関心を持つ心を醸成することによって、将来の豊かな人間形成に役立つのではないかと考えている。

なお、これらの活動に対してはクラブによって社会奉仕委員会が援助を行っている。

※　分科会の次年度方針として中野アドバイザーの総合的なアドバイスも受けながら、2005 ～ 2006 年度引継事項ともにらみ合わせ 2006 ～ 2007 年度としての各クラブの実情に即した活動を本日の

分科会の討議の中から、また、全体会議の報告を参考に年度を進めていきたいと考えている。

社会的弱者問題について

全国的に高齢化が進む一方、出生率の低下が報じられている中で、社会奉仕部会としては特に、身体障害者、高齢者などの社会的弱者が健康で安心して生活できるように、各自治体とも連携しながら活動していくべきであるとの意見が出された。

私の所属するクラブでは、身体障害者福祉施設に車椅子を寄贈し、大変喜ばれているが、活動の中で一人暮らしの高齢者宅を訪れる場合などは、家の中に入られる事を好まない場合もある。活動が善意に基づくものであることはもちろんであるが、先方の状況、気持ちなども十分に理解する必要がある。

場合によっては地域の民生委員や社会福祉協議会とも連携を取りつつ、活動が善意を超え、押し付けにならないような配慮も心がけたいものである。

また、協議の中で後藤サブリーダーから、各クラブの近況や今後の取り組みについて報告を求めたが、その内容は以下のとおりである。

パワー浜松クラブ　鈴木会員：通年で地区の清掃活動を実施している。

浜松クラブ　中野アドバイザー：重度身障学園への奉仕活動を８年間に渡って行っている。

浜松第２分区　駒形会員：富士山の美化運動としてゴミ収集を数年間実施しているが、今後も継続していく予定である。

分科会では多くのクラブから発言があり、非常に活発で有意義なものとなった。

なお、去る５月 20 日に小沢地区社会奉仕委員長と現地調査を行ったが、立ち枯れなどの状況も見られたため、次年度以降、下草刈りと併せて 100 本前後の植え替えが必要と思われる。